



美術館のマナー



芸術の秋、美術館に出かけるのもよいですね。芸術鑑賞は、教養を深めるのはもちろんのこと感性が刺激され、脳の活性化にもつながるとされています。

美術館では自分だけでなくまわりの方も楽しめるように、そして、貴重な作品を後世に残していくためにもマナーが求められます。そこで今回は、美術館での過ごし方や豆知識をご紹介します。

美術館での過ごし方

作品に触らない、静かに過ごすなどの基本的なこと以外にも、このような心得をご存知ですか？

①展示室に持ち込んではいけないもの

- ・植物……虫の侵入や花粉の付着は、作品の汚損や食害につながる場合があります。
 - ・長い傘……長く、先が尖った傘は作品を破損する危険があります。
- その他、大きな荷物もロッカーに預けましょう。



②メモをするときは鉛筆を使いましょう

シャープペンシルは芯が折れて飛びやすく、ボールペンはインクが作品に付着する可能性があるため使用できない施設が多いです。鉛筆を受付で貸し出ししている施設もあります。

③飲食はもちろん、飴やガムも控えましょう

くしゃみや咳をした拍子に、口の中のものが作品に当たる可能性があります。固形物だけでなく唾液も作品劣化の原因になるので気をつけましょう。

美術館はなぜ「薄暗く」「寒い」の？

美術館で、「薄暗い」「寒い」と感じたことはありませんか？実は作品保護のため、温湿度は一定を保つよう徹底管理されています。温度は20度前半に設定されている施設が多いです。

また、光の明るさや展示して良い日数は厳密に決まっています。



おすすめの服装は？

寒さ対策の羽織ものがあると安心です。

静かな館内では、思った以上に音が響きます。靴やアクセサリは音のしないものを選びましょう。

ショルダーポーチがあると便利です。

持ち込む荷物は必要最低限にとどめましょう。



美術館の鑑賞マナーは、まわりの方への配慮と作品保護につながります

